

# エコアクション 21

## 環境活動レポート

活動期間：2016年10月～2017年9月

株式会社 小野田

所在地：静岡市葵区千代1丁目14番33号

作成日：平成30年 1月 15日（第13版）



# 目 次

表 紙	1 ページ
目 次	2 ページ
1.環境方針	3 ページ
2.組織の概要	4 ページ
3.環境活動実施体制	5 ページ
4.環境目標	6 ページ
5.目標と実績の評価(2016年10月～2017年9月)	8 ページ
6.目標と実績の比較(2016年10月～2017年9月)	9 ページ
7.事業活動のフロー図(2016年10月～2017年9月)	13 ページ
8.評価内容(2016年10月～2017年9月)	14 ページ
9.本年度の主な取り組み内容(2016年10月～2017年9月)	15 ページ
10.次年度の主な取り組み内容(2017年10月～2018年9月)	16 ページ
11.環境関連法規制等への違反、訴訟等の有無	17 ページ
12.代表者による全体評価と見直しの結果	18 ページ

## 1.環境方針

# 株式会社小野田 環境方針

### 基本理念

私達は自然の営みを配慮した事業活動を通して、地域と地球の環境保全に貢献し、美しい地球を子供達に引き継いでゆく。

### 環境方針

1.当社の事業活動である、紙製品、紙加工品の流通・販売事業によって発生する下記の環境負荷を低減する。

(1)二酸化炭素排出量の削減

- ①電力使用量の削減
- ②ガソリン・軽油使用量の削減

(2)廃棄物発生量の削減

- ①紙加工により発生する紙類の再生利用の徹底
- ②使用済み木製パレットの再資源化の徹底

(3)水資源使用量の削減

- ①水道使用量の削減

2.グリーン購入、エコマーク商品の販売を推進する。

3.環境関連法規制等を順守する。

4.環境方針を、掲示し全社員に周知させ事業活動の中で環境に配慮した行動が出来るよう社員1人ひとりが環境保全の向上に努める。

制定日 2006年8月11日

改訂日 2015年10月1日

株式会社 小野田

代表取締役 小野田 眞

## 2.組織の概要

### 1.事業社名及び代表者名

株式会社 小野田

代表取締役 小野田 眞

### 2.所在地

本社・本社倉庫 : 静岡県静岡市葵区千代1丁目14番33号

慈悲尾倉庫(無人) : 静岡県静岡市葵区慈悲尾39番地

### 3.環境管理責任者及び担当者氏名、連絡先

環境管理責任者 : 井鍋 祐太

担当者 : 同上

連絡先 : TEL 054-277-2001

FAX 054-277-2007

E-Mail inabe@paper-onoda.co.jp

### 4.事業内容

洋紙、板紙、情報用紙、及び紙加工品の販売

### 5.事業の規模

(1)資本金 : 1,200 万円

(2)売上高 : 6.3 億円(2016 年度実績)

(3)従業員 : 13 名

(4)床面積 : 1040 m<sup>2</sup>

### 6.対象範囲

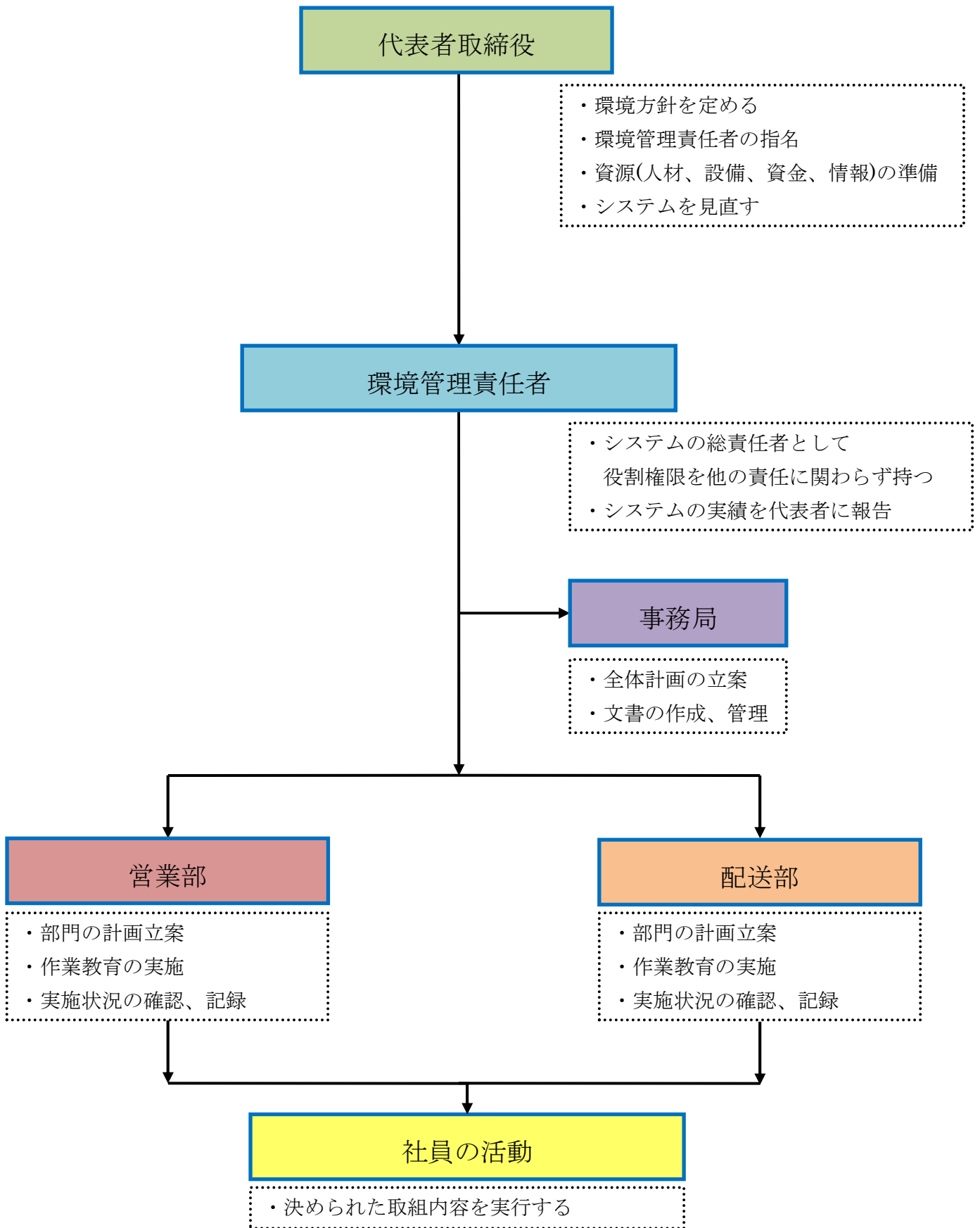
#### 1.対象範囲(認証・登録範囲)

本社、慈悲尾倉庫

(全組織・全活動・全従業員を対象とする)

### 3.環境活動実施体制

#### 1.組織図及び実施体制



## 4.環境目標

- 1.目標の設定にあたり、二酸化炭素量、水使用量については2011年度～2013年度の環境目標同様、2010年度を基準とする。
- 2.目標の設定にあたり、産業廃棄物、一般廃棄物について2013年度は2011年度～2013年度の環境目標を達成することが出来た為、新たに2013年度を基準とすることで、更なる資源循環を促してゆく。
- 3.グリーン購入の目標設定について、2010年度の実績が把握できない為、最新の実績が把握できる2013年度を基準とする。
  - (1)環境に配慮した製品づくりは目標の設定が難しい為、活動展開のみとする。
  - (2)一般廃棄物は過去の実績把握が出来ない為、運用期間で把握。

環境目標 (中期)	項目	単位	基準年 2010年度	2014年度目標	2015年度目標	2016年度目標
二酸化炭素量 (2016年度までに 3%削減)	二酸化炭素量	kg/CO <sub>2</sub>	72,385	71,659 (基準年-1%)	70,935 (基準年-2%)	70,212 (基準年-3%)
	電力量 (二酸化炭素量)	kWh	61,329 (31,462kg/ CO <sub>2</sub> )	60,715 (31,147kg/ CO <sub>2</sub> ) (基準年-1%)	60,102 (30,832kg/ CO <sub>2</sub> ) (基準年-2%)	59,489 (30,518kg/ CO <sub>2</sub> ) (基準年-3%)
	ガソリン使用量 (二酸化炭素量)	L	8,690 (20,178kg/ CO <sub>2</sub> )	8,603 (19,976kg/ CO <sub>2</sub> ) (基準年-1%)	8,516 (19,774kg/ CO <sub>2</sub> ) (基準年-2%)	8,429 (19,572kg/ CO <sub>2</sub> ) (基準年-3%)
	軽油使用量 (二酸化炭素量)	L	7,921 (20,745kg/ CO <sub>2</sub> )	7,841 (20,536kg/ CO <sub>2</sub> ) (基準年-1%)	7,762 (20,329kg/ CO <sub>2</sub> ) (基準年-2%)	7,683 (20,122kg/ CO <sub>2</sub> ) (基準年-3%)

※購入電力 二酸化炭素排出量係数：0.513kg-CO<sub>2</sub>/kWh を使用 出典：中部電力(2013年)

※ガソリン 二酸化炭素排出量係数：2.322kg-CO<sub>2</sub>/L を使用 出典：環境省

※軽油 二酸化炭素排出量係数：2.619kg-CO<sub>2</sub>/L 出典：環境省

環境目標 (中期)	項目	単位	基準年 2010年度	2014年度 目標	2015年度 目標	2016年度 目標
水資源使用量 (2016年度までに 3%減)	上水道使用量	m <sup>3</sup>	1,076	1,065 (基準年-1%)	1,055 (基準年-2%)	1,044 (基準年-3%)

環境目標 (中期)	項目	単位	基準年 2013年度	2014年度 目標	2015年度 目標	2016年度 目標	
循環資源依頼 (100%を目標)	資源循環依頼	%	100% (17.98t)	100% (17.80t)	100% (17.60t)	100% (17.40t)	
循環資源処理量 (100%を目標)	木くず (循環資源処理量)	%	100% (4.73t)	100% (4.68t)	100% (4.63t)	100% (4.58t)	
単純焼却処理量 (2016年度までに 3%減)	一般 廃棄物	単純焼却	t	1.97	1.95 (基準年-1%)	1.93 (基準年-2%)	1.91 (基準年-2%)
目標設定無し		その他	t	—	—	—	—

環境目標 (中期)	項目	単位	基準年 2013年度	2014年度 目標	2015年度 目標	2016年度 目標
グリーン購入 継続	製品 グリーン購入	件	3	3	3	3
	事務用品		購入の都度 確認	購入の都度 確認	購入の都度 確認	購入の都度 確認

## 5.目標と実績の評価(2016年10月～2017年9月)

環境目標項目	項目	単位	基準年 2010年度実績	2016年度目標	2016年度実績	評価
二酸化炭素量 (2016年度までに 3%減)	二酸化炭素量	kg/CO <sub>2</sub>	72,385	70,212	63,036	◎
	電力量 (二酸化炭素量)	kWh	61,329 (31,462kg/CO <sub>2</sub> )	59,489 (30,518kg/CO <sub>2</sub> )	56,783 (29,130kg/CO <sub>2</sub> )	○
	ガソリン使用量 (二酸化炭素量)	L	8,690 (20,178kg/CO <sub>2</sub> )	8,429 (19,572kg/CO <sub>2</sub> )	5,714 (13,268kg/CO <sub>2</sub> )	◎
	軽油使用量 (二酸化炭素量)	L	7,921 (20,745kg/CO <sub>2</sub> )	7,683 (20,122kg/CO <sub>2</sub> )	7,880 (20,638kg/CO <sub>2</sub> )	△
水資源使用量 (2016年度までに 3%減)	上水道使用量	m <sup>3</sup>	1,076	1,044	987	◎

環境目標項目	項目	単位	基準年 2013年度実績	2016年度目標	2016年度実績	評価
循環資源依頼 (100%を目標)	資源循環依頼	t	100% (17.98t)	100% (17.40t)	100% (29.39t)	◎
循環資源処理量 (100%を目標)	木くず (循環資源処理量)	t	100% (4.73t)	100% (4.58t)	100% (2.66t)	◎
単純焼却処理量 (2016年度までに 3%減)	単純焼却	t	1.97	1.91	1.19	◎
目標設定無し	その他	t	—	—	—	—
グリーン購入 継続	グリーン購入	件	3	3	3	○
	事務用品		購入の都度 確認	購入の都度 確認	購入の都度 確認	—
備考	評価基準 ◎：目標と実績を比較し、目標達成かつ達成率5%以上 ○：目標と実績を比較し、目標達成かつ達成率5%未満 △：目標と実績を比較し、目標未達成かつ達成率-5%未満 ×：目標と実績を比較し、目標未達成かつ達成率-5%以上					

※購入電力 二酸化炭素排出量係数：0.513kg-CO<sub>2</sub>/kWh を使用 出典：中部電力(2013年)

※ガソリン 二酸化炭素排出量係数：2.322kg-CO<sub>2</sub>/L を使用 出典：環境省

※軽油 二酸化炭素排出量係数：2.619kg-CO<sub>2</sub>/L 出典：環境省

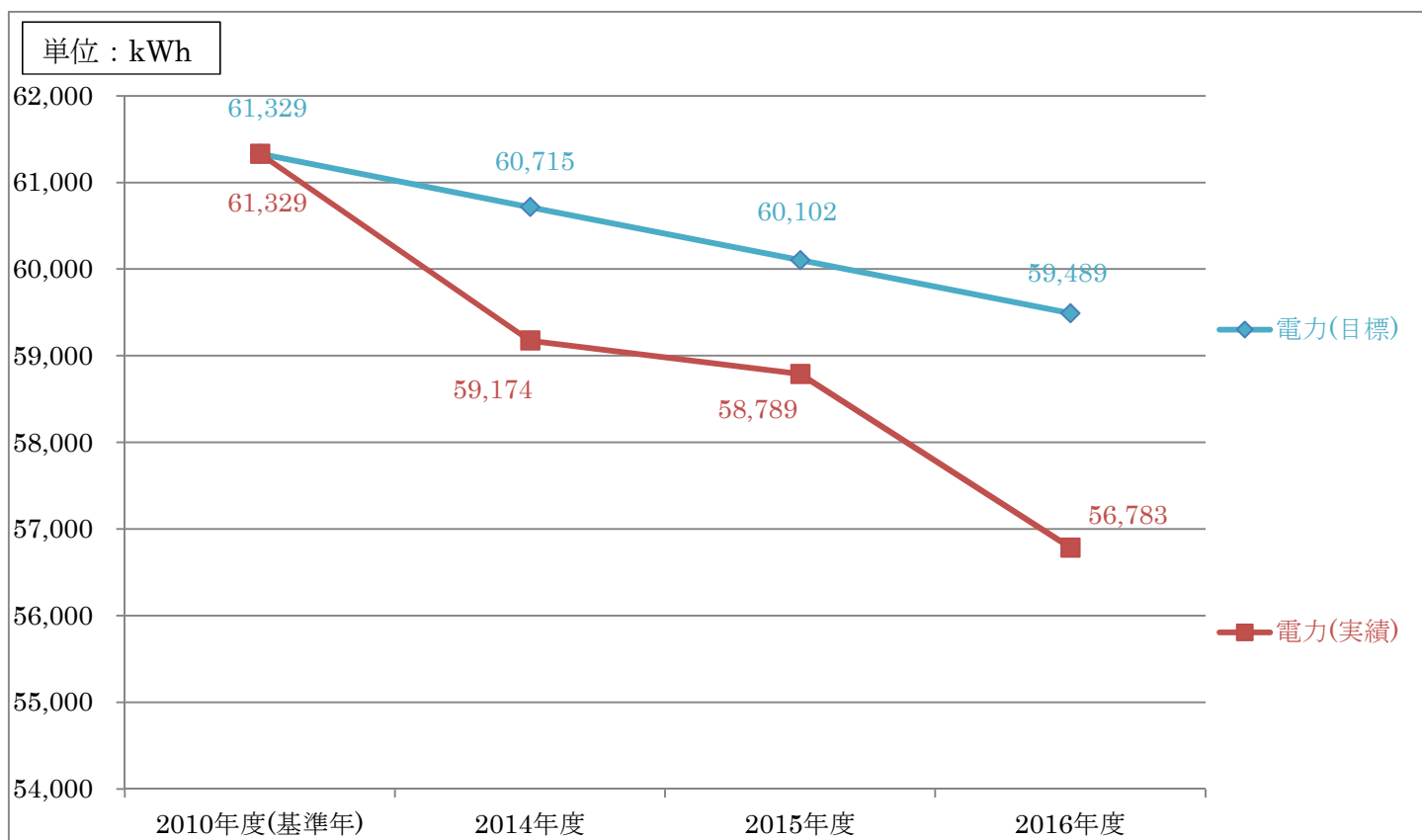


## 6.目標と実績の比較(2016年10月～2017年9月)

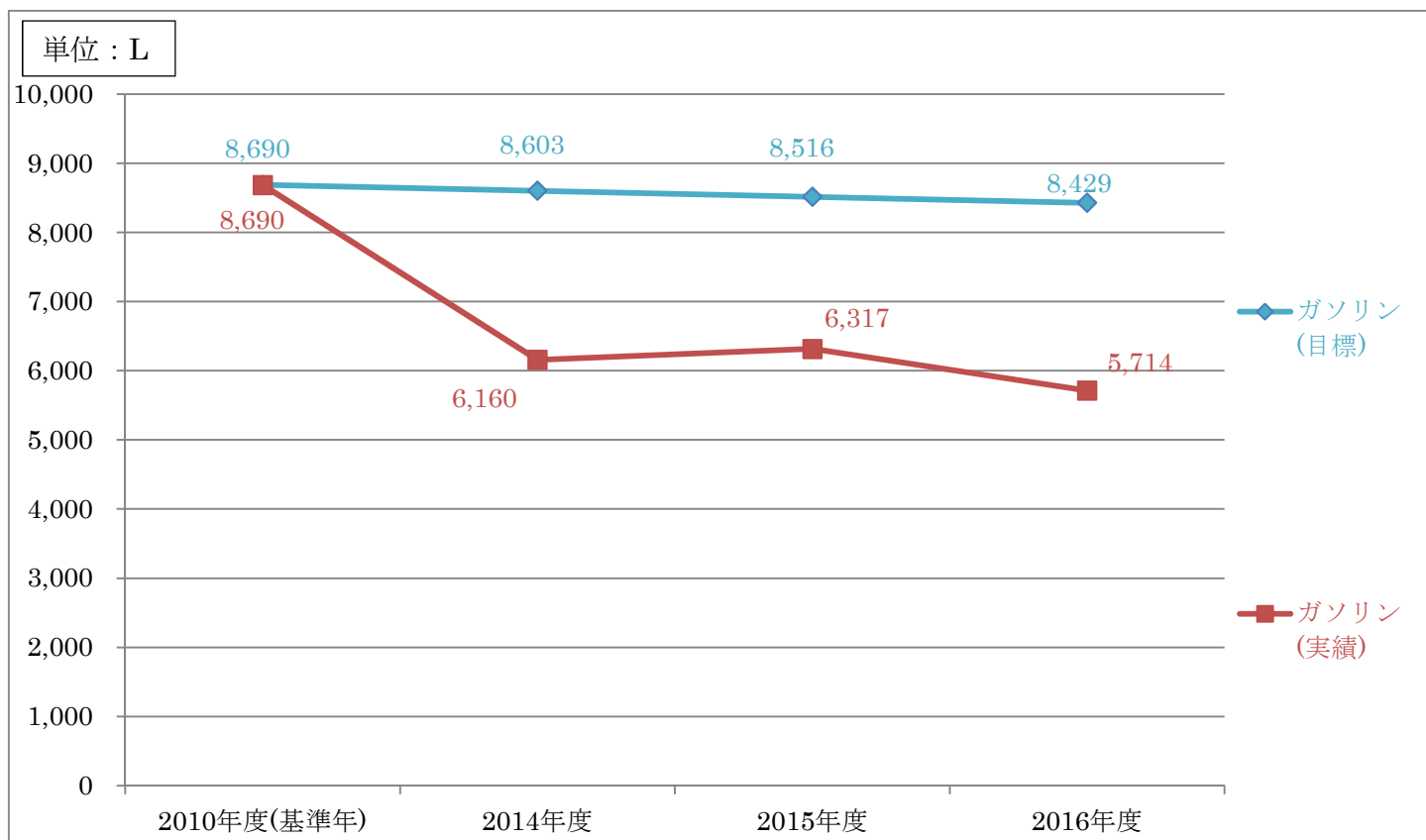
### 1.項目：二酸化炭素量



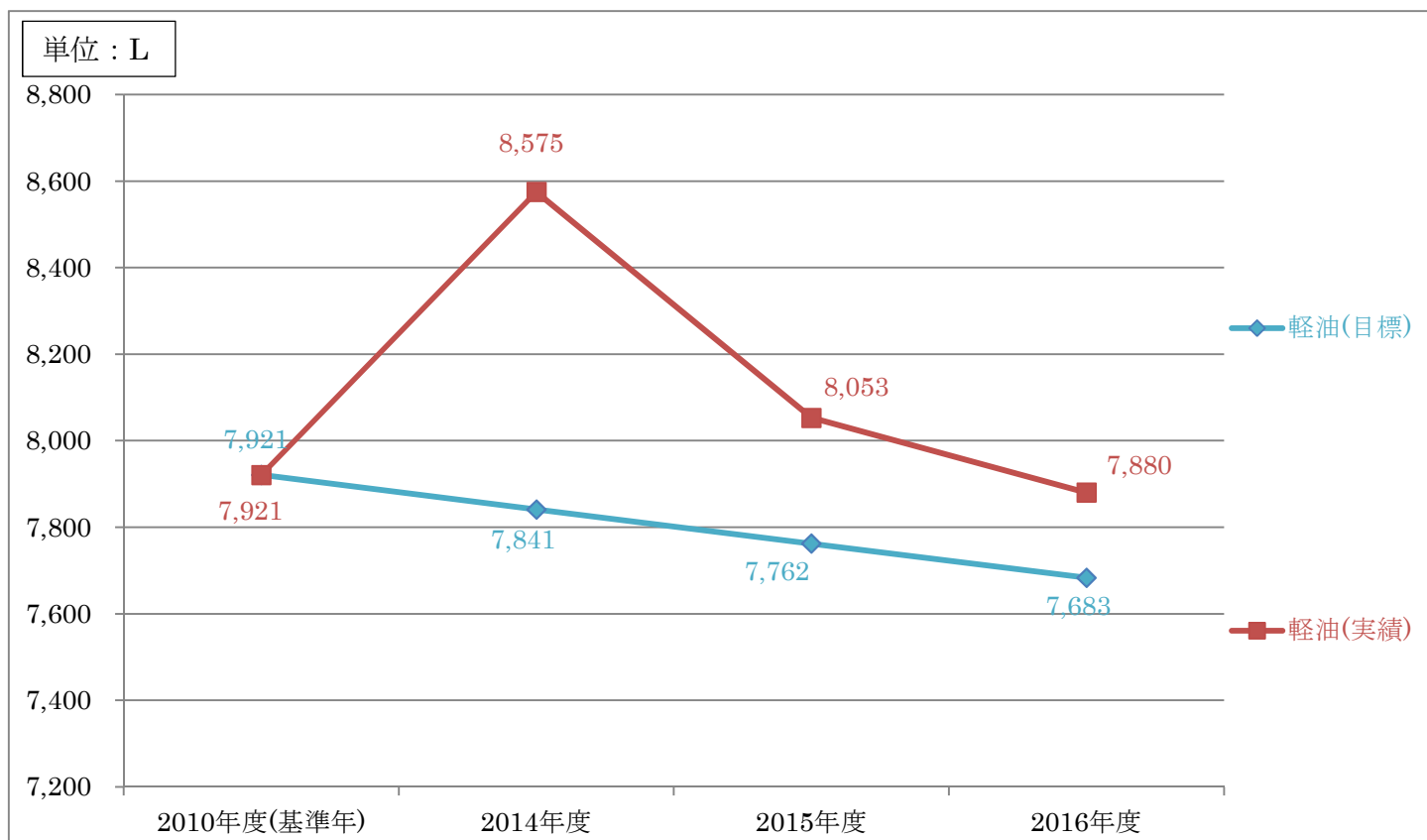
### 2.項目：電力量



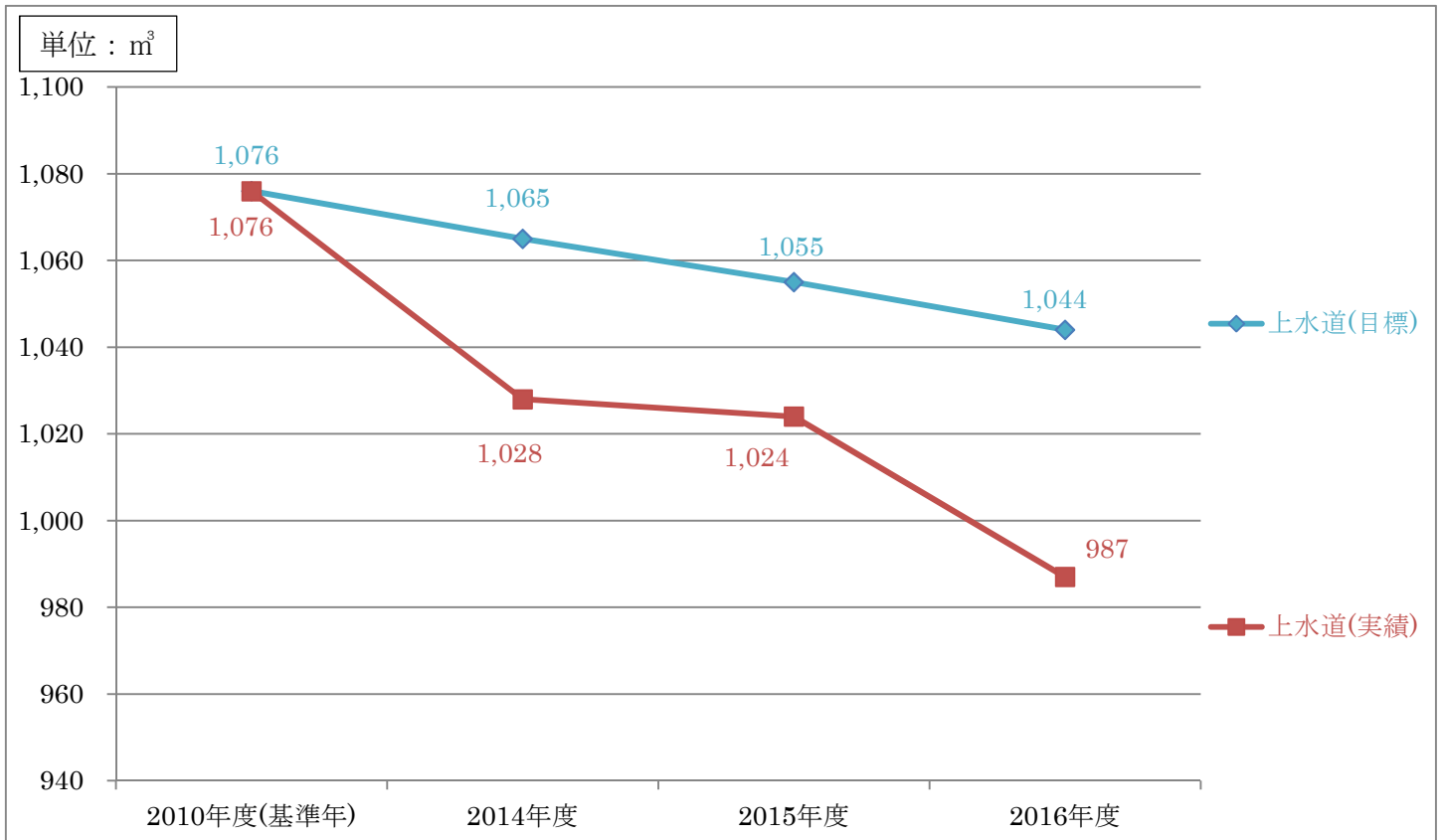
### 3.項目：ガソリン使用量



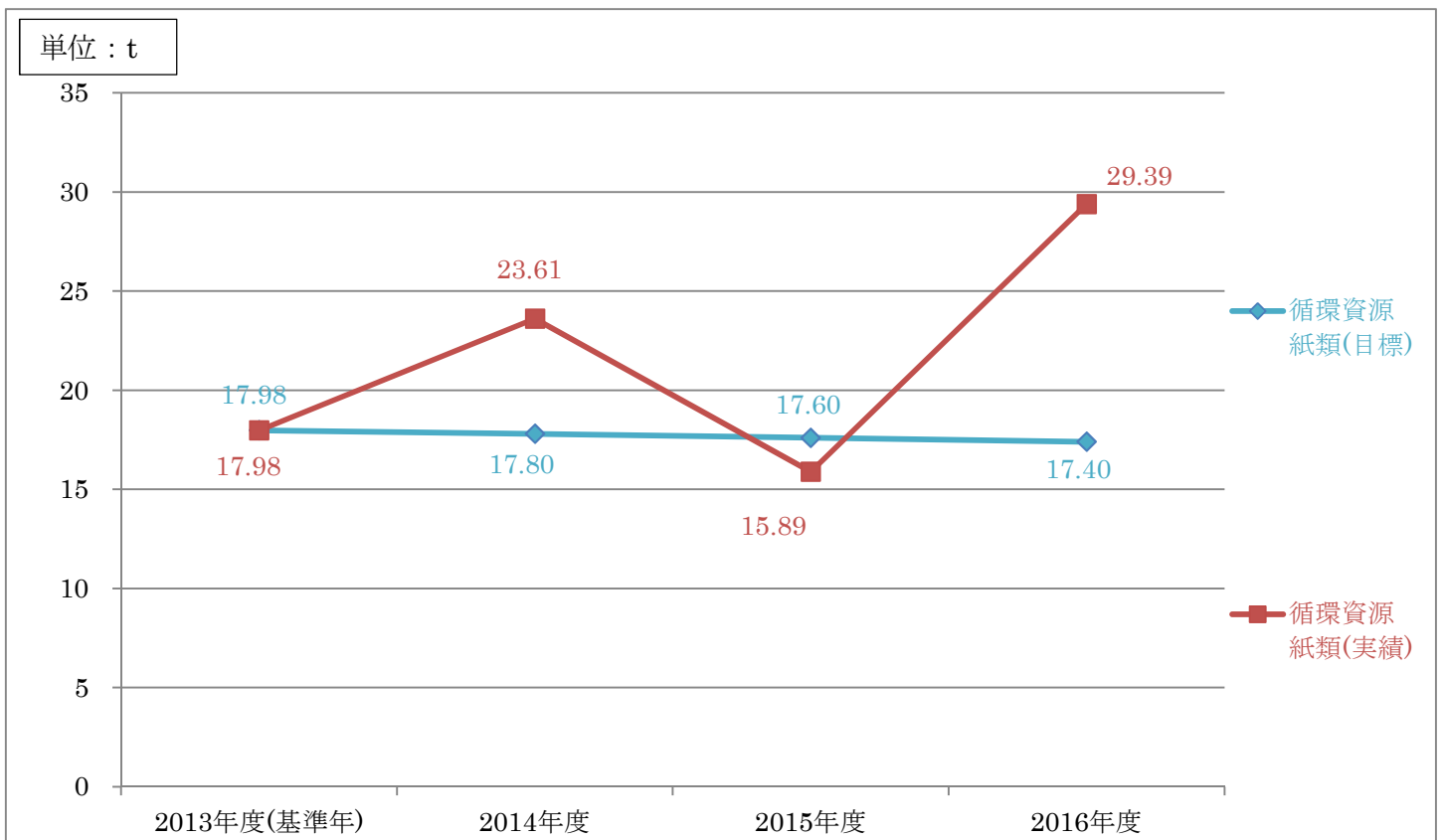
### 4.項目：軽油使用量



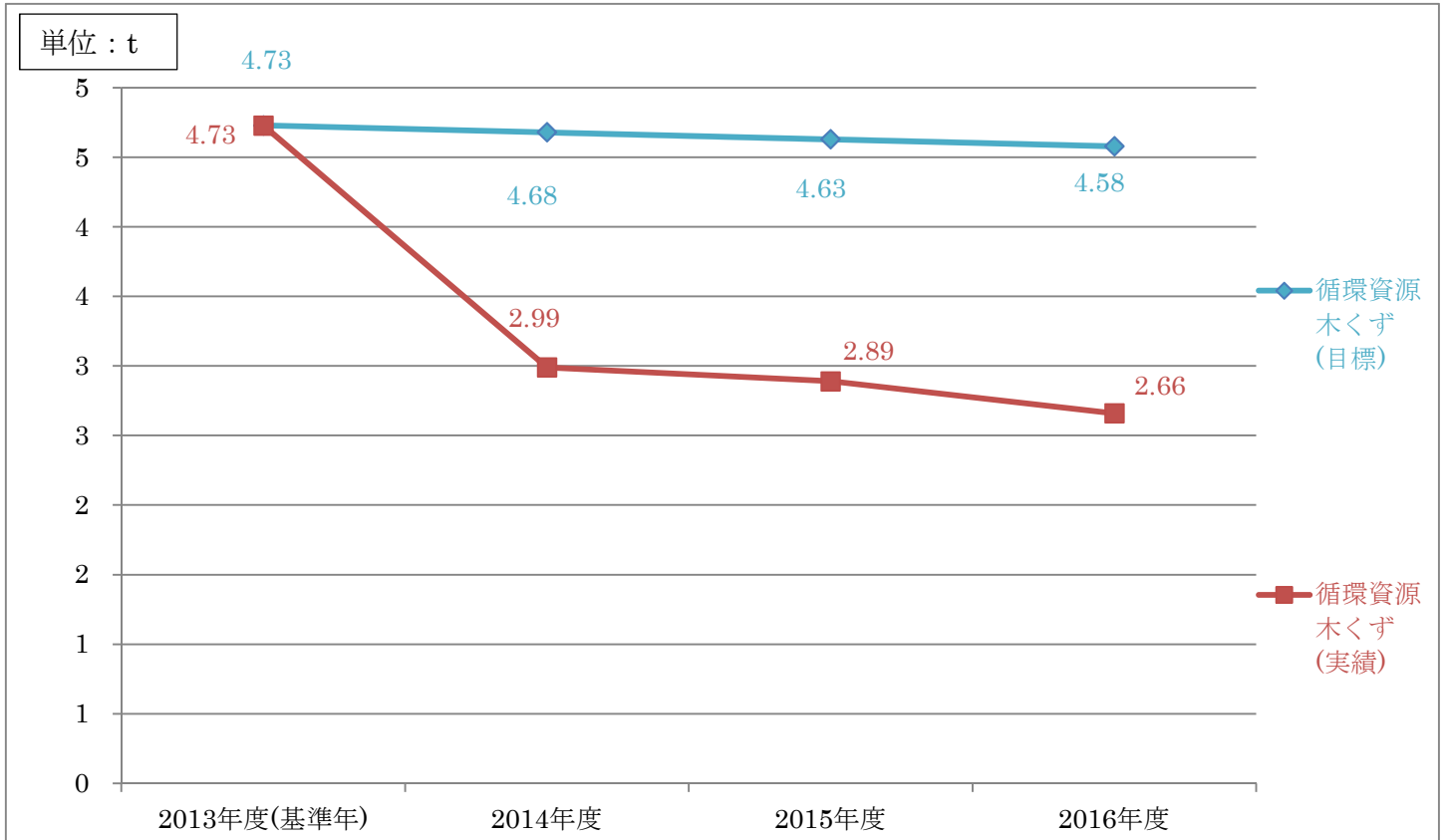
### 5.項目：上水道使用量



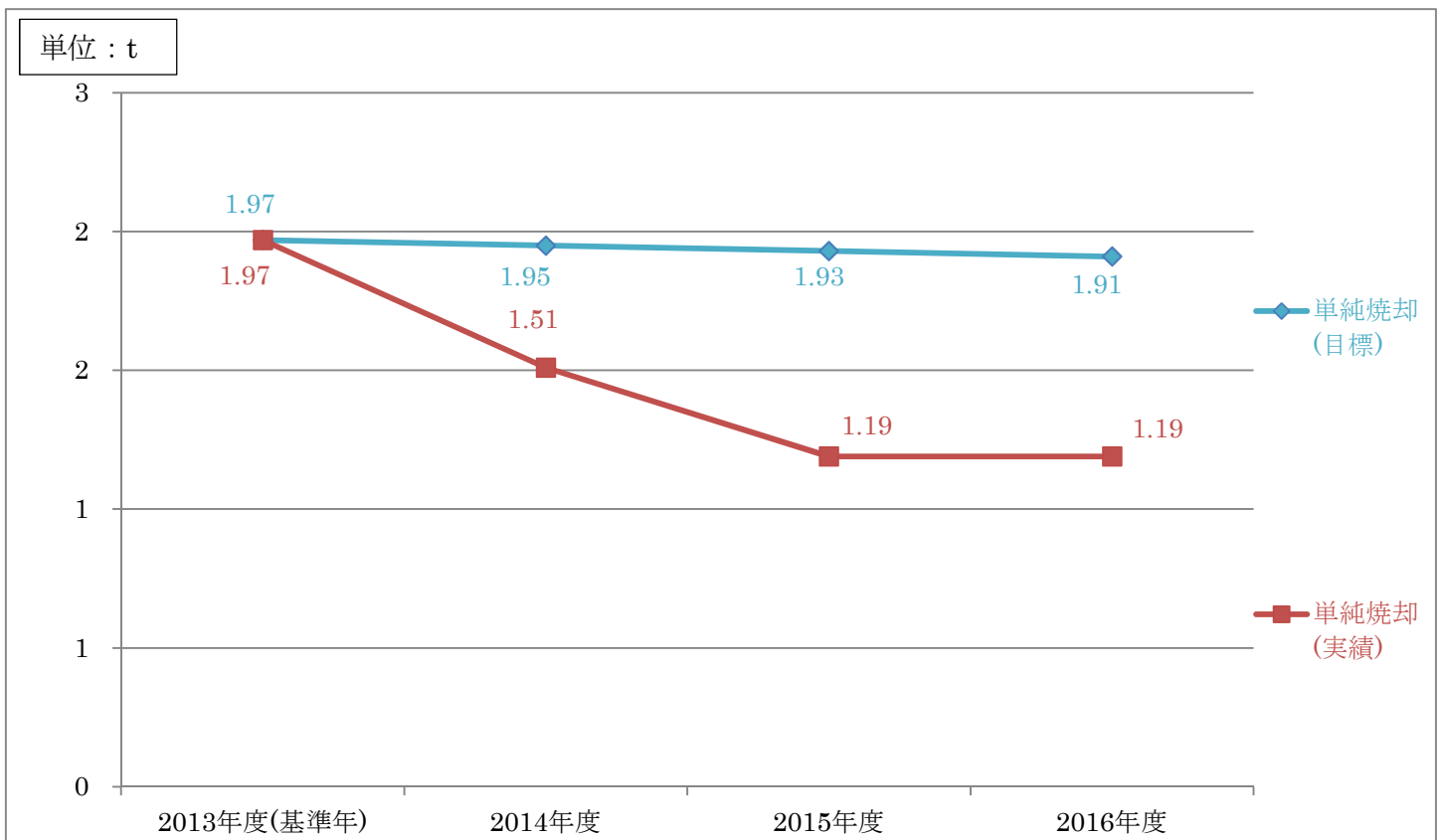
### 6.項目：循環資源処理量(紙類)



### 7.項目：循環資源処理量(木くず)

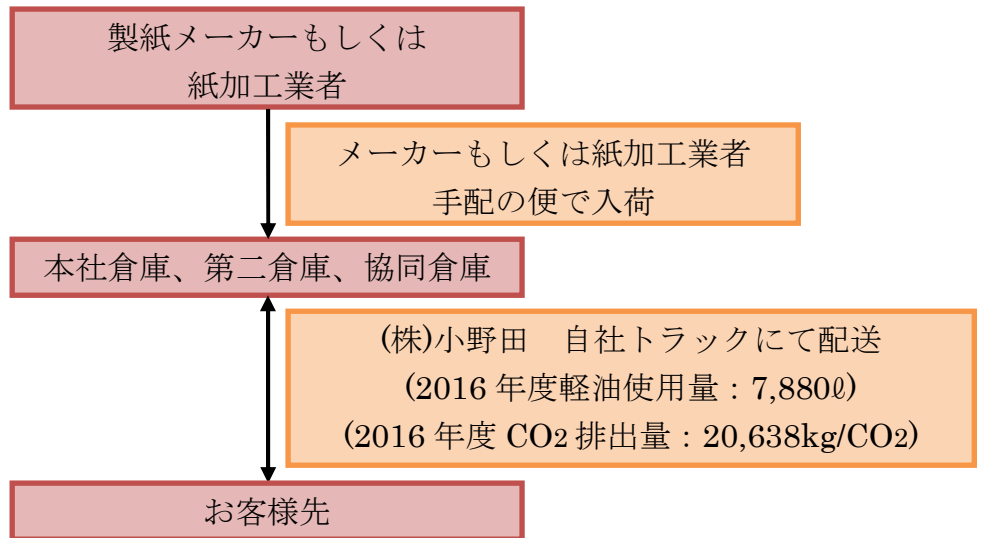


### 8.項目：単純焼却量

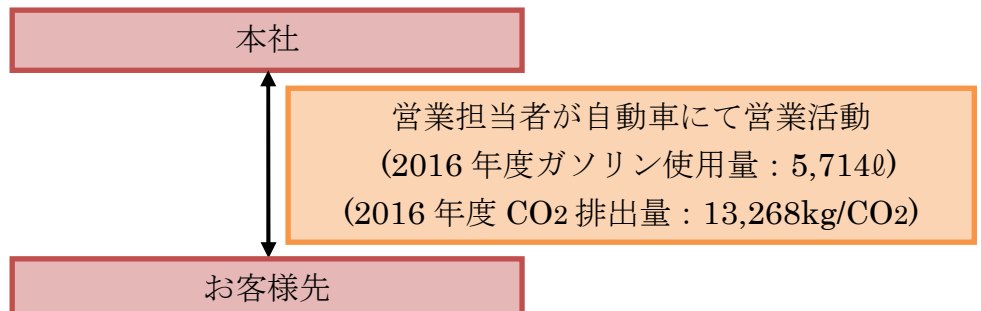


## 7.事業活動のフロー図(2016年10月～2017年9月)

### ①製品もしくは紙加工品のフロー図



### ②営業活動のフロー図



### ③事業活動によって発生した循環資源、木くず、単純焼却物のフロー図



## 8.評価内容(2016年10月～2017年9月)

### 1.環境目標項目：二酸化炭素量(2016年度までに3%減)

二酸化炭素量…2016年度目標 70,212 kg-CO<sub>2</sub>に対し、実績 63,036 kg-CO<sub>2</sub>で目標達成。

- ① 電 力：照明の交換 2017年6月に事務所、トイレ、1階廊下、断裁室、本社倉庫、2階会議室の照明をLED照明へ交換。

設備の撤去 2017年6月に消費電力の大きい断裁室の除湿機1台を撤去。  
以上2つの活動が要因となり、2017年6月以降消費電力を抑えることができた。  
また、前年度同様下記の活動を継続したことで目標を達成できた。

- デマンドコントローラーの機能を改めて説明したことで  
各社員がデマンドコントローラーに表示される消費電力量を  
より気にかけるようになり、警告が鳴る前に不要な電気を止めるなど  
省エネ活動を積極的に行うようになった。

- ②ガソリン：営業担当のガソリン車を2017年2月、7月にハイブリット車へ変更。  
ガソリン消費量を大幅に減らすことができた。(全てハイブリット車へ変更)

- ③ 軽 油：前年同様、計画配送を徹底。  
しかし長距離配送、新規配送先が増えたことにより、走行距離が増えた。  
結果、軽油使用量が増え、目標未達成となった。  
配送の状況が変化している為、次回目標設定時に見直しが必要と考える。

### 2.環境目標項目：水資源使用量(2016年度までに3%減)

上水道使用量…2016年度目標 1,044 m<sup>3</sup>に対し、実績 987 m<sup>3</sup>で目標達成。

- ①上水道：従来通り水を使った構内清掃を行っているが、水の使用を最小限に抑えた。

### 3.環境目標項目：循環資源処理量(2016年度までに毎年100%を目標とする)

循環資源処理量(紙類)、循環資源処理量(木くず類)ともに目標達成。

- ① 紙 類：商品断裁時も断裁取り都合を考え、再資源化する端材を極力出さない様にした。  
しかし、ロットが大きい商品を断裁仕上げせざるを得ない状況が度々起こり、  
結果排出量が増える原因となってしまった。
- ②木 く ず：破損した木製パレットは処理業者にて処理(木材チップ化)。  
使用可能な木製パレットは極力再利用した。  
結果、木くずの排出量が減り、処理量も減らすことが出来た。

### 4.環境目標項目：単純焼却処理量(2016年度までに3%減)

単純焼却量…2016年度目標 1.91tに対し、実績 1.19tで目標達成。

- ①単純焼却：紙類、木くずの再資源化を徹底。

### 5.環境目標項目：グリーン購入(2016年度まで購入数継続)

グリーン購入…2015年度目標 3件に対し、実績 3件で目標達成。

## 9.本年度の主な取り組み内容(2016年10月～2017年9月)

活動計画と評価							
		環境計画項目	実施責任者	評価	コメント	今後(次年度)の取組内容	
二酸化炭素の削減	エコドライブ	A. 不必要なアイドリングの禁止	天野、井鍋	○	各社員にエコドライブの意識は定着、次年度以降もエコドライブを継続する。	継続する。	
		B. 業務上不要な荷物を降ろす	天野	○			
		C. 急発進・急加速の禁止	天野、井鍋	○			
		D. 効率的な配送ルートと配送のタイミングを常に検討する	天野	○			
		E. 早めにシフトアップ	天野	○			
		F. 給油時、タイヤの空気圧を確認する	天野、井鍋	○			
		車他	A. 自動車購入時は省エネ車採用	社長	○	営業の自動車は全てハイブリット車へ変更	変更の際はハイブリット車を採用する。
		空調等	A. 社内のエアコン設定温度を冷房27℃、暖房20℃に設定	大河原	○	前年度同様、過度な空調を行わない様、各社員が適時空調の調整を行った。	継続する。
	B. クールビズ・ウォームビズの実施		井鍋	○			
	C. 定期的なエアコンのフィルターを清掃する		天野	○			
	D. 使用していない部屋の空調を止める		大河原	○			
		照明	A. 消灯の徹底	井鍋	○	本年度、一部LED照明を導入。	残りの箇所にLED照明を導入する。
	B. 高効率照明の採用(LED照明等)		井鍋	○			
		電気	A. 未使用設備の電源を止める	天野	○	デマンドコントローラーにて監視を継続。	継続する。
			B. デマンドコントローラーの導入	井鍋	○		
	水使用削減	A. 水撒き、洗車時の節水(ストッパー取り付け)	天野	○	井戸水を利用し散水量を削減。	継続する。	
		B. 植栽への水撒きに井戸水を使用	天野	○			
	廃棄物削減	A. 封筒などの再利用	井鍋	○	再利用できる封筒は社内用として利用。	継続する。	
	リサイクル	A. 古紙を分別、古紙収集会社へ処理を依頼しマテリアルリサイクルを行う	井鍋	○	再生可能資源は処理会社へ処理を依頼。再利用できるものは再利用し、排出量を出来る限り抑えた。	継続する。	
		B. 不要な木製パレットを廃棄物処理会社へ依頼しマテリアルリサイクルを行う	井鍋	○			
		C. 不要なビニール類を廃棄物処理会社へ依頼しサーマルリサイクルを行う	井鍋	○			
	グリーン購入	A. 事務用品グリーン購入の推進	井鍋	○	実行済み。	継続する。	
	教育訓練	A. 環境経営システムの運用説明	井鍋	○	全社員で緊急事態の訓練済み。	継続する。	
		B. 緊急事態の想定訓練	山本	○			
	備考	運用期間の評価期間は2016年10月～2017年9月末とする。			※評価の進捗欄は○△×で評価する。		

# 10.次年度の主な取り組み内容(2017年10月～2018年9月)

## 活動計画と評価

環境計画項目		実施責任者	評価	コメント	今後(次年度)の取組内容
二酸化炭素の削減	エコドライブ	A.不必要なアイドリングの禁止	天野、井鍋		
		B.業務上不要な荷物を降ろす	天野		
		C.急発進・急加速の禁止	天野、井鍋		
		D.効率的な配送ルートと配送のタイミングを常に検討する	天野		
		E.早めにシフトアップ	天野		
		F.給油時、タイヤの空気圧を確認する	天野、井鍋		
		G.燃費を毎月確認し現状を把握、改善につなげる	天野、井鍋		
	車他	A.自動車変更時は省エネ車を採用する	社長		
	空調等	A.社内のエアコン設定温度を冷房27℃、暖房20℃に設定	大河原		
		B.クールビズ・ウォームビズの実施	井鍋		
		C.定期的にエアコンのフィルターを清掃する	天野		
		D.使用していない部屋の空調を止める	大河原		
		E.日射を遮るため、遮光対策の実施	井鍋		
	照明	A.消灯の徹底	井鍋		
		B.高効率照明の採用(LED照明等)	井鍋		
	電気	A.未使用設備の電源を止める	天野		
A.デマンドコントローラーの監視、活用		井鍋			
水使用削減	A.水撒き、洗車時の節水(ストッパー取り付け)	天野			
	B.植栽への水撒きに井戸水を使用	天野			
廃棄物削減	A.封筒などの再利用	井鍋			
リサイクル	A.古紙を分別、古紙収集会社へ処理を依頼しマテリアルリサイクルを行う	井鍋			
	B.不要な木製パレットを廃棄物処理会社へ依頼しマテリアルリサイクルを行う	井鍋			
	C.不要なビニール類を廃棄物処理会社へ依頼しサーマルリサイクルを行う	井鍋			
グリーン購入	A.事務用品グリーン購入の推進	井鍋			
教育訓練	A.環境経営システムの運用説明	井鍋			
	B.緊急事態の想定訓練	山本			
備考	運用期間の評価期間は2017年10月～2018年9月末とする。			※評価の進捗欄は○△×で評価する。	



## 11.環境関連法規制等への違反、訴訟等の有無

法的義務を受ける主な環境関連法規制は次の通りです。

法規制等の名称	条項	適用詳細	遵守確認
静岡市廃棄物の処理及び減量に関する条例	4条	廃棄物の適正処理及び再利用による減量	適正処理済み。
産業廃棄物処理法		産業廃棄物の適正処理(木パレット)自社運搬	適正処理済み。
資源有効利用促進法		古紙、損紙、断裁くずの再利用	適正処理済み。
家電リサイクル法	6条	可能な限りの長期間使用(テレビ、冷蔵庫) 製品廃棄時、有料にて適切な引渡し	処分実績無し。
フロン排出抑制法	5条	簡易点検	実行済み。
		定期点検	H30年3月までに 実施予定
自動車リサイクル法	8条	使用済み自動車の業者への引渡し	処分実績無し。
パソコンリサイクル法		有料にて適切な引渡し	処分実績無し。

環境関連法規制等の順守状況の定期評価の結果、環境法規制等の違反なし。  
過去3年間にわたっても違反、訴訟、又、行政、関係機関からの指導なし。

## 12.代表者による全体評価と見直しの結果

### ◇全体評価

今年度行ったエコアクション活動は主に2つある。

- ①LED照明の一部導入(本社、本社倉庫)
- ②自動車を全てハイブリット車へ変更

①について、導入以降消費電力量が10～15%程下がり、  
②について、前年度と比較しガソリンの消費量を10%抑えることができた。

これら目で見える結果を共有する事は、社員個人が今まで以上にエコアクション活動に興味を持つ契機になったと考える。

次年度以降も積極的にエコアクション活動取り組んでゆく。

### ◇見直し

前年度同様、軽油使用量についてニーズの多様化により配送機会が増え使用量の削減が難しい状況にある。

次回の目標設定時に、目標値の見直しが必要であると考えている。

また、循環資源の排出量が前年度と比較し約2倍という結果だった。  
排出量を抑制する為の手立てがなかったのか、次年度以降排出量を抑えられるよう  
検証し役立ててゆこうと考える。

2018年 1月 15日

株式会社 小野田

代表取締役 小野田 眞